

(様式2)

議員行政視察報告書

議員名	上野和幸
視察地	栃木県宇都宮市
視察年月日	令和6年11月19日(火)
視察内容(目的・具体的内容・成果等)	
1 LRTの導入等について (1) 視察目的 宇都宮市においては、人口減少や少子・超高齢化、脱炭素社会への移行などの社会環境の大きな変化に的確に対応するため、将来の都市構造として全国に先駆けて「ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)」の形成に取り組んできた。 急激な人口減少等、同様の課題を持つ本市の今後の都市構造を模索する上で、大いに参考となると考え視察を計画した。 (2) LRT導入の経緯と経過について この地域に生まれたLRT(ライトライン)は、路面電車の文化のない地域でのゼロからの挑戦であり、ライトラインは鉄道やバス、地域内交通と共に住まいや医療、福祉、商業などの生活の必要な施設を集約した拠点間を結ぶ重要な街づくりの基軸となった。2000年の「新交通システム導入基本方針」の策定から20年間の間、様々な検討を続け、2023年8月26日に、宇都宮駅東側の地域、芳賀・宇都宮LRT(ライトライン)15kmが開業した。 公共性・継続性の確保、効率性の向上など、健全で持続的な民間活力を生かした交通システムとするため公共が走行空間や交通結節点・停車場などを整備・保有し、民間の営業主が運航・日常の維持管理を行う「公設型上下分離方式」を採用している。 (3) 視察の成果 今回の視察では、LRT(ライトライン)に実際に乗車し乗り心地の良さや、便利さ、市民のLRTに対する反応等を聴き、貴重な体験することが出来た。LRTの事業化に向けては、街づくりの課題解決のため、市民の理解を求めることはもちろん、技術的・	

専門的な検討を進めるため、大学教授などの有識者や、国や県の行政アドバイザーなどによる検討委員会を立ち上げ、活発な議論を行ったと聞いた。（詳細は資料）

駅東側に開発された LRT は様々な効果を生み出し、市民の評判も良く、今後は、駅の西側に LRT を設置する計画である。

本市においても、人口減少問題や、脱炭素の問題、車依存社会、除雪などの課題解決のために、LRT 構想も大きな方策の一つと思う。雪国であるための大きな問題点もあるがコンパクトな街づくりを目指す本市にとって大きな示唆を与えてくれる宇都宮の取組であると感じた。

議 員 名	上 野 和 幸
視 察 地	埼玉県川口市
視察年月日	令和 6 年 1 1 月 1 9 日（火）
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
1 アドベンチャープレイについて (1) 視察目的 現在、子供を取り巻く状況は、学校においては不登校やいじめ問題、また、家庭においては、核家族化や共働き家庭の増加によって放課後の子どもの居場所づくりが問題となっている。そのような中で、埼玉県川口市においては行政主導でアドベンチャープレイ事業を行っているを知り、視察を計画した。 (2) 事業内容と費用等について 本事業は、子どもたちの中に、豊かな遊びを復活させ、冒険心・好奇心を刺激し、自主性・創造性・社会性を高め、児童の健全な育成を図ることが目的である。放課後の子どもの居場所づくりとなっている。 活動場所である 2 か所の公園にプレイリーダーハウスを設置し、非常勤職員 6 名によるローテーションで常時各 2 名を配置し、市民ボランティアであるプレイリーダーの協力により各種イベントを実施している。活動日は、火・水・木・土曜日（祝日を除く）午前 1 0 時から午後 5 時までとしている。 事業内容は①遊びの提供や遊具の貸し出し（ベイゴマ・こま・けん玉・竹馬・図書） ②各種イベント（わんぱくまつり・こどもまつり・新春伝承あそびまつり等） ③プレイリーダーの養成講座及び研修会等 令和 5 年度の事業実績では、1 9 7 日の活動日に二つの公園を合わせて 4 万人を超える児童が利用している。令和 6 年度の予算額は 1 千 5 2 万 2 千円である。 (3) 成果と事業の課題 子どもたちや市民からのアンケートでは、「公園に行けば友達がいる」「いろんな	

遊びができる」「大人がいるので安心して遊ばせることが出来る」など好意的な意見が多い。

課題は、プレイリーダーの高齢化が進み新たな人材探しに苦慮している。川口市においては養成講座を実施し、修了者については無償ボランティアとして、市登録のプレイリーダーとしている。また、プレイリーダーの研修会を行い、資質の向上に努めている。

(4) 所 見

密集した住宅街の中に、ポツンとある公園。公園の中央には築山、まわりには何本かの樹木もある。キャッチボールが出来る広場もあり、そこで異なる年齢の子どもたちが様々な遊びをしている。公園の中には、リーダーハウスがあり、指導員の方が子ども達とにこやかに会話をしている。

本市においても、こういった場所があっても良いのではないかと思う。放課後児童クラブで静かに宿題をやっているばかりではなく、屋外で安心して好きなことが出来る環境を整える必要性を感じた。

また、リーダーの養成も大きな課題の一つである。川口市においては、地域のボランティア団体との取組や地域住民の方が見守る様子が紹介された。地域が子供たちを守る姿勢を学ぶことが出来た。旭川市においても、子どもたちの放課後の居場所づくりとして、安心して安全な場所の提供が必要に思う。場所の提供と指導者、予算と課題はあるが真剣に取り組むべき課題である。

特に、屋内に閉じこもりがちな冬の遊び場の確保については、スキーやスノーボード、スケート、雪中サッカーや雪合戦、ワカサギ釣りやかまくらづくり、地域の独居高齢者の家の除排雪など工夫をすれば大人が見守り、子どもの居場所を確保することは可能になると思う。是非、行政と地域が手を取り合い実現すべきであると思う。

議 員 名	上 野 和 幸
視 察 地	東京都荒川区
視察年月日	令和 6 年 1 1 月 2 0 日（水）
視察内容（目的・具体的内容・成果等）	
1 ゆいの森あらかわについて (1) 視察目的 「ゆいの森あらかわ」は、これまでにない新しい複合施設であって、図書館、えほん館、ゆいの森ホール、ゆいの森子どもひろば、吉村昭記念文学館、飲食スペース、災害時の防災拠点と様々な顔を持つ施設で、今後建設が予定されている本市の複合施設の参考となればと思い視察を計画した。 (2) 「ゆいの森あらかわ」の概要と設置までの経緯 平成 17 年 8 月～ これからの図書館調査懇談会を始まりとして、10 年以上の構想の期間があり、その間区民や関係者との協議を行い現在の建物となった。建設時のコストについては、用地取得も含め約 90 億円である。ランニングコストは年間約 5.8 億円（令和 5 年度）。 「こども支援部」が所管で、行政直営で運営をしている。 5 階建ての各階において、様々な工夫がされており、住民のニーズに応える施設になっている。例えば、子育て世代については、こども一時預かり所が設置されているし、階が上に上がるにつれ、静かに仕事したい人の居場所が確保されている。また、小学生が実験したことと関連した書物がわかりやすく整理されているなど、どの世代の人にも利用しやすいように配慮されている。 (3) 所見 図書館の機能が主たる目的の建物であるが、建物自体が明るく建てられていて気持ちが良い。各階ごとの書架の整理はもちろん、利用者が利用しやすいことをしっかりと作り上げている。蔵書規模は 60 万冊ではあるが、その用途に応じた書架になっている。各階には図書館司書や職員が配置されていて、住民の質問にすぐ対応できる状況にある。また、ホールもあり、イベントや勉強会も開催できるよう設置されている。これらは建設にあたり行政と議会が 10 年かけて協議を続けた成果であると言った担	

当職員の言葉が心に残った。

旭川市においても、今後いくつかの複合施設が計画されている。建物本来の目的を達成することが第一であるが、人口減少が急激に進む中、複合的に使えるコンパクトな設計が必要であると思う。また、災害時に避難場所として利用できるなど多目的な用途が可能になる建物を建設しなければならない。そのためにも、行政と議会・市民が計画を練り合わせ十分な検討が必要に思う。これまでの旭川市の大型建築物の建設に当たっては練り合わせが足りないと、今回の視察を通して感じた。ぜひ多くの人の総意で、使い勝手の良い複合施設を実現したい。